

倉敷管弦楽団

団 長：田 辺 幹 夫
 常任指揮者：菊 池 東
 副指揮者：吉 市 幹 雄
 コンサートマスター：守 屋 美枝子
 〃：佐 藤 真理子

運営委員長：陶 山 容 良
 運営副委員長：坂 口 充 倫
 運営委員：友 野 良 一
 ：石 渡 日出男
 〃：光 延 勢 吾

1stヴァイオリン

○守 屋 美枝子
 ○佐 藤 真理子
 中 桐 佐知子
 大 江 恭 子
 山 名 良
 出 宮 治 子
 三 村 卓 司
 陶 山 容 良
 深 沢 聡 子
 平 田 利 枝
 岩 瀬 裕 子
 越 宗 宣 子
 園 田 哲 郎
 ×浅 井 直 樹
 ×有 田 和 恵
 ×稲 田 真 理
 ×高 橋 久 子
 ※中 村 博 仁

ヴィオラ

○黒 住 彰 夫
 友 野 良 一
 武 本 克 己
 八木原 周 平
 中 野 隆 重
 勝 部 喜代志
 深 沢 秀 雄
 須 見 綾 子
 西 山 治 美
 内 田 けい子
 ×西 田 寛 子
 ×栗 原 健 敏
 ※中 川 行 敏

チェロ

○西 田 毅 雄
 田 辺 幹 夫
 宇 野 義 雄
 黒 田 正 典
 松 江 雄 二
 井 上 良 子
 石 渡 日出男
 藤 原 千恵子
 枡 本 辰 郎
 ×光 延 勢 吾
 ×劉 文 彰
 ×市 川 みづほ
 ×田 中 光 子
 ×延 藤 聡 子

2ndヴァイオリン

菊 池 東
 ○木 村 啓 子
 岡 崎 良 弘
 赤 沢 和 美
 河 村 真知子
 勝 部 万里子
 吉 田 精 一
 熊 沢 智 子
 平 尾 尚 子
 人 見 陽 子
 ※大 井 孝 子

コントラバス

○松 本 高 広
 本屋敷 勝 信
 曾我部 仁 和
 難 波 由 宏
 安 田 友 子
 ※小 野 美保子
 ※江 田 岳

フルート

○坂 口 充 倫
 橋 爪 直 美
 片 山 知 子

オーボエ

○角 田 容 子
 秋 山 慶 子
 安 田 元 子

クラリネット

○川 名 光 治
 川 名 あ き
 守 屋 玲 子
 甲 斐 暁 美

ファゴット

○稲 田 裕 彦
 川 崎 哲 哉
 新山王 政 和

ホルン

○吉 市 幹 雄

西 崎 大 修
 板 谷 信 昭
 文 谷 功 功
 斧 田 大 介

トランペット

○森 田 裕 三 憲
 石 原 卓 也
 岡 本 卓 也

トロンボーン

○佐 藤 道 郎
 佐 藤 正 俊
 谷 口 一 夫

チューバ

※森 峰 茂 樹

打楽器

○平 松 泰 一
 ×陶 山 京 子
 ×西 岡 啓 治
 ×光 井 和 味
 ※田 中 美 年
 ※谷 本 江 里

○印——パートリーダー
 ×印——今回不参加
 ※印——客 演

倉敷管弦楽団

第11回定期演奏会



1985年6月1日(土)PM 6:30

倉敷市民会館

主催/倉敷市・倉敷市教育委員会・倉敷市自主文化事業協会・倉敷管弦楽団
 後援/NHK岡山放送局・山陽放送・岡山放送・瀬戸内海放送・岡山県郷土文化財団

倉敷管弦楽団第11回定期演奏会

NHK・FM放送日時のお知らせ

6月9日(日)PM10:00~11:00

倉敷管弦楽団に入団希望の方は
 下記に御連絡下さい。

- 定例練習日 毎週月曜日PM7:00~9:30
- 練習場 倉敷市民会館練習室

お問い合わせ

田辺幹夫 ☎(0862)63-3521
 菊池 東 ☎(08652)2-5145



ごあいさつ

倉敷管弦楽団
団長 田辺幹夫

本日は、倉敷管弦楽団の第11回定期演奏会に御来場頂き誠にありがとうございます。

十年一昔と言いますが、私達の倉敷管弦楽団は1974年の創立以来おかげさまで昨年10周年を迎え、今年から20周年へ向かって新しい第一歩を踏み出しました。

これもひとえに皆様方の多年にわたる御支援によるもので、厚く御礼申し上げますと共に今後とも一層の御声援をよろしくお願い致します。

今回は、新進気鋭の指揮者金洪才氏とトランペットの第一人者津堅直弘氏をお迎えして日頃の練習の成果をカーぱい御披露します。どうかごゆっくりおたのしみ下さい。

プログラム

小組曲(ビュッセル編曲) ドビュッシー

1. 小舟にて
2. 行列
3. メヌエット
4. バレエ

トランペット協奏曲 変ホ長調 フンメル

- 第1楽章 アレグロ・コン・スピリト
- 第2楽章 アンダンテ
- 第3楽章 ロンド

—— 休憩 ——

交響曲 第2番ニ長調 作品73 ブラームス

- 第1楽章 アレグロ・ノン・トロツポ
- 第2楽章 アダージョ・ノン・トロツポ
- 第3楽章 アレグロ・グラツィオーゾ
- 第4楽章 アレグロ・コン・スピリト

倉敷管弦楽団の主な演奏記録

●第1回定期演奏会 (S50.12.8)

ヘンデル 合奏協奏曲 Op6-10
 ヴィヴァルディ 協奏曲集「四季」より春夏
 バッハ カンクォータBWV202
 “いまぞ去れ悲しみの影よ”
 ブランデルブルグ協奏曲第4番
 小山清茂 弦楽の為のアイヌの歌
 指揮/菊池 東

●第2回定期演奏会 (S51.11.16)

ヴィヴァルディ 2つのトランペットの為の協奏曲
 バッハ ブランデンブルグ協奏曲第1番
 レスピーギ リュートの為の古代舞曲とアリア第3組曲
 ボッケリーニ チェロ協奏曲変ロ長調
 指揮/早川 正昭 チェロ/山崎 伸子

●ランバルと管弦楽の夕べ (S52.9.24)

テレマン フルート協奏曲ニ長調
 モーツアルト フルート協奏曲第1番その他
 指揮/早川 正昭 フルート/ランバル

●第3回定期演奏会 (S53.1.8)

ヘンデル 水上の音楽 (ハレ版)
 モーツアルト ヴァイオリン協奏曲第3番
 ドボルザーク 弦楽セレナーデホ長調
 指揮/フォルカー・レニッケ ヴァイオリン/和波 孝禧

●ゴールドブレンドコンサート (S53.11.3)

ウエストサイド物語・序曲
 ロッキーのテーマ
 スターウォーズのテーマ
 フィーリング・アラモ
 マイウェイ 他
 指揮/石丸 寛 ゲスト/雪村いづみ

●第4回定期演奏会 (S53.12.10)

ブリテン シンプルシンフォニー
 バッハ 二つのVnの為の協奏曲
 モーツアルト 交響曲第38番ニ長調 (ブラーハ)
 モーツアルト ピアノ協奏曲第20番ニ短調
 指揮/菊池 東 ピアノ/深沢 亮子

●特別演奏会 (S54.7.15)

ヴィヴァルディ バイオリン協奏曲イ短調
 シューベルト 交響曲第8番ロ短調 (未完成)
 ベートーヴェン バイオリン協奏曲ニ長調
 指揮/榎本 辰郎 ヴァイオリン/水島 愛子

●第5回定期演奏会 (S54.12.9)

モーツアルト 交響曲第40番ト短調
 ハイドン チェロ協奏曲第2番ニ長調作品101
 ベートーヴェン 交響曲第1番ハ長調作品21
 指揮/菊池 東 チェロ/安田謙一郎

●管弦楽の為の高梁川初演発表会 (S55.5.31)

ワーグナー ニュルンベルグのマイスター・ジンガー
 前奏曲
 モーツアルト 交響曲第38番ニ長調「ブラーハ」
 伊玖磨 管弦楽の為の高梁川
 指揮/伊玖磨 菊池 東

●第6回定期演奏会 (S55.12.7)

ヘンデル 合奏協奏曲 Op6-6
 モーツアルト オーボエ協奏曲ハ長調
 ドヴォルザーク 交響曲第9番「新世界より」
 指揮/堤 俊作 オーボエ/ディーテルム・ヨナス

●第7回定期演奏会 (S56.6.9)

モーツアルト デイヴェルティメントニ長調 K136
 ビゼー アルルの女 第2組曲
 ベートーヴェン 交響曲第7番イ長調 作品92
 指揮/早川 正昭

●ゴールドブレンドコンサート (S56.9.23)

レスピーギ 交響詩「ローマの松」
 チャロウザ オーボエ協奏曲ハ長調
 ヴェルディ 歌劇「アイーダ」より凱行進行曲 他
 指揮/石丸 寛 オーボエ/小島 葉子
 ソプラノ/中沢 桂

●二期会中・四国支部オペラ公演 (S56.12.13)

モーツアルト オペラ「魔笛」
 指揮/古谷 誠一

●第8回定期演奏会 (S57.6.6)

ベートーヴェン エグモント序曲
 モーツアルト 交響曲第41番 ジュピター
 スメタナ 交響詩組曲「わが祖国」より
 高い城 モルダウ
 指揮/古谷 誠一

●倉敷管弦楽団岡山演奏会 (S57.12.13)

モーツアルト セレナーデ第9番「ポストホルン」
 シューマン ピアノ協奏曲
 ドボルザーク 交響曲第8番
 指揮/菊池 東 ピアノ/田中いづみ

●ゴールドブレンドコンサート (S58.4.30)

チャイコフスキー 「くるみ割り人形」より花のワルツ
 ♪ ヴァイオリン協奏曲
 ♪ 交響曲第5番
 指揮/石丸 寛 ヴァイオリン/前橋 汀子

●二期会中国支部オペラ公演 (S58.10.6) (S58.10.16)

モーツアルト オペラ「フィガロの結婚」
 指揮/古谷 誠一

●第9回定期演奏会 (S58.12.11)

モーツアルト 「フィガロの結婚」序曲
 メンデルスゾーン ヴァイオリン協奏曲ホ短調 作品64
 ベートーヴェン 交響曲第3番変ホ長調「英雄」
 指揮/湯浅 卓雄 ヴァイオリン/豊田 弓乃

●玉島文化センター落成記念コンサート (S59.6.2)

スッペ 喜歌劇「詩人と農夫」序曲
 伊玖磨 管弦楽の為の高梁川
 ベートーヴェン 交響曲第5番ハ短調「運命」
 指揮/菊池 東

●倉敷第九演奏会 (第10回定期演奏会) (S59.12.2)

ベートーヴェン レオノーレ序曲第3番
 ベートーヴェン 交響曲第9番「合唱付」
 指揮/堤 俊作





プロフィール

金 洪才 指揮



1954年10月10日、兵庫県生まれ、兵庫県内の朝鮮初、中、高級学校(小、中、高校)で12年間民族教育を受け、最優等成績で卒業。
 朝鮮高校で音楽を李鐘石氏に、後に作曲と民族音楽を李喆雨氏に師事・桐朋学園大で指揮を堤俊作、秋山和慶、小沢征爾、森正の各氏に師事。
 1978年3月、東京シティ・フィル特別演奏会でデビュー。

12月、桐朋学園オーケストラ第49回定期演奏会で指揮。
 1979年9月、第14回民音指揮者コンクールで2位と初めての特別賞(斎藤秀雄賞)を合せて受賞、入賞記念コンサートで各地の主要オーケストラと6都市で協演し、注目を集める。
 1979年10月、朝鮮民主主義人民共和国を訪問し、朝鮮国立交響楽団を指揮し、録音もした。
 1979年5月、大阪フィルハーモニー交響楽団、1980年3月、名古屋フィルハーモニー交響楽団、1980年4月、九州交響楽団の“朝鮮管弦楽特集”演奏会で初演指揮し、大好評を博す。
 1980年6月、テレビ番組「オーケストラがやって来た」400回記念、新専属指揮者オーディションで2百数名の中から選ばれ話題となる。
 1981年1月、NTV日本テレビ系「私の音楽会」の専属指揮者にも就任すると共に、各地のオーケストラを客員指揮し、内外の著名なソリストとも協演した。
 近年は、各地で若いソリストとの協演や、全国の大学オーケストラ、青少年オーケストラ、アマチュアオーケストラなどの客員指揮も意欲的に行なっている。
 現在、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮者、名古屋フィルハーモニー交響楽団指揮者。

津堅直弘 トランペット



1950年沖縄県に生れ、小学校では鼓笛隊でシンバルを楽しみ那覇中学で吹奏楽部に入り、はじめてトランペットを吹き始める。首里高校で3年間バンド活動を続け1968年国立音楽大学へ入学、北村源三氏に学ぶ。大学2年の時よりできたばかりの新星日本交響楽団で演奏活動をはじめ卒業後は秋山和慶指揮アルス・ノヴァとブランデンブルグ協奏曲2番を協演、又、ソチエタ・バロックとテレマン、ハイドンの協奏曲を協演し、東京フィルハーモニー交響楽団で活躍するかたわら祖堅方正、多戸幾久三の両氏と共に東京プラスアンサンブルを結成する。その間NHK・FM「夕べのリサイタル」、東フィルとハイドンの協奏曲を十数回協演するなどオーケストラ、アンサンブル、ソロ等幅広い活動を展開する。
 1978年にNHK交響楽団に入団し1979年N響6月定期公演でフンメル協奏曲を、1980年1月「若い芽のコンサート」でN響とハイドンの協奏曲を協演、又NHKFM「午後のリサイタル」「テレビ・コンサート」等に出演、同年1月に第1回リサイタルを開催。
 1981年1月第2回リサイタルを開催。
 1982年1月第3回リサイタルを開催。
 1983年文化庁派遣で西ドイツのミュンヘンに留学。バイエルン国立歌劇場管弦楽団首席奏者のパウ・ラッペンマイヤー氏に師事する。
 現在、N響首席奏者。

倉敷管弦楽団

“美しい音色と良いアンサンブルで質の高い演奏を”を合言葉に昭和49年設立の倉敷管弦楽団は、文化都市倉敷にふさわしい若さと熱気に満ちた楽団です。バロックから現代曲迄幅広い演奏活動で、岡山県を代表する楽団として、昭和57年には岡山県文化功労賞を受賞、昨年12月には創立10周年記念として、倉敷第九演奏会を開催し大成功を収めました。
 現在、団員数は80数名にのぼり、発足以来美しい弦の響きには定評があり、フルートの世界的巨匠ジャンピエール・ランパル氏との共演を初め、ヴァイオリンの和波孝禧氏、前橋汀子氏、豊田弓乃氏、ピアノの深沢亮子氏、チェロの安田謙一郎氏、山崎伸子氏、オーボエのディーテルム・ヨナス氏、又、地元岡山県内で活躍中の音楽家達との共演や、團伊玖磨氏作曲の「管弦楽のため

の高梁川」の初演、二期会中国支部とのモーツァルトのオペラ「魔笛」「フィガロの結婚」の全曲演奏、地元合唱団との共演等地方のオーケストラとしてはそれぞれ注目の的となる多彩な演奏活動が続いています。また、定期演奏会では客演指揮者を招く事も多く早川正昭氏、フォルカー・レニッケ氏、堤俊作氏、古谷誠一氏、湯浅卓雄氏、そして今回の金洪才氏と現在各地で活躍中の優秀な指揮者を招いて楽団のレベル向上を計っています。
 なお本年度は、定期の後、9月16日、玉島文化センターに於いてショパン「ピアノ協奏曲1番」チャイコフスキー「白鳥の湖」、12月1日、岡山市民会館において中国二期会のオペラモーツァルト「コシ・ファン・トゥッテ」等の演奏会を計画しています。



倉敷第九演奏会より

ドビュッシー 小組曲(ビュッセル編曲)

原曲はドビュッシーが1889年、27歳のとき作曲した四手用のピアノ曲で、同年3月パリのあるサロンで作曲者と楽譜出版社の後継ぎジャック・デュランが初演したが、その時は注目されなかった。アンリ・ビュッセル(池内友次郎の師)が管弦楽用に編曲してからむしろ有名になった。編曲では木管楽器の魅力的な音色が巧みに利用されている。第一曲「小舟にて」、第二曲「行列」、第三曲「メヌエット」、第四曲「バレエ」からなる13分ほどの小品であるが、いずれも作曲家の初期の作品らしく、みずみずしく親しみやすい。この組曲の最初の2曲は、フランス象徴主義の詩人ヴェルレーヌの詩集「艶めく宴」の中の詩の題名と同一のもので、全曲を通じて美しいメロディーと軽やかなリズムを持つ、可愛いらしく情感に満ちた、まさにフランスのエスプリあふれた作品である。

フンメル トランペット協奏曲変ホ長調

トランペットを学ぶ者にとって、一度は演奏してみたいものに、ハイドンの協奏曲と、このフンメルの協奏曲がある。大部分の協奏曲を書く作曲家に言えることだが、彼らは、あたかもその楽器を自由自在に演奏できるかのように熟知しているのである。この2曲が特に有名なのも、その事が基盤になっているからであろう。
 ヨハン＝ネーポムク・フンメル(1778~1837年)はモーツァルトの直接の弟子で、ピアノの名手として名声があった。彼の作品は非常に多く、特に彼得意の楽器のために書かれているその中の1つである。このトランペット協奏曲は、原曲がホ長調という異例の非常に輝かしい調で書かれた大規模な作曲で、はっきりとしたモーツァルトからの影響の跡を持っているが、現在は変ホ長調で演奏されることが多い。

ソナタ形式の中で、経過する大きな古典的構築を持った堂々たる1楽章は特にそれを感じさせる。しかしながら、より短かい連続して演奏される後の2つの楽章からは、時に古典主義からはみ出した表現領域を感じさせられ、作曲者自身の芸術家としての転換期であったことがうかがえる。

ブラームス 交響曲 第二番二長調作品73

“すべてが、さゞ波のそよぐ流れと、碧い空と、太陽の光と、涼しい緑の木蔭だ”
 ブラームスの親しい友人は、初演を聞いた感動をこう語ったと伝えられています。夕暮れを思わせる静かな低弦のひゞきを背景に、ホルンが角笛のようにたつぷりと鳴りわたり、フルートやクラリネットが追いかけるように牧歌的にのびやかに歌うとバイオリンが次第に弱まってくる夕暮の太陽の光のように奏され、続いて優しく美しい第一主題を歌う……。このようにこの交響曲は始まって、聞く人をいつか、のどかな田園にさそいこんでいきます。

この交響曲は、ブラームス44才の夏に、オーストリアの小さい湖のほとりにあるペルチャッハという避暑地で作曲されたものですが、ブラームスにこのように喜びに満ちた交響曲を書かせたペルチャッハというところは、どんなに美しくよいところだろうかと思われま。

この交響曲は、倉敷管弦楽団員の圧倒的多数の希望でプログラムにのせられましたが、それを、新進気鋭の金洪才氏のもの静かな中に情熱をこめた指揮によって演奏できることは、私達団員にとってこれ以上の喜びはありません。

